

安政六巳未年二月廿四日

徳誉恢郭子儀 善法子

行年七十二歳

芝三緑山寺内

常照院二葬

抑歌舞妓の■觴は我朝神代の俳優を根元とすまでに永禄年中

名古屋山左衛門ト云者出雲のお国と其小謀てかぶきを始む是神樂を變風

して妓樂に和らげ 則妓女のなす所なれば是を歌舞伎と号く今安政六

未年まで凡三百一年におよぶ夫より天正三亥年北野にて舞ふ是芝居にて

勤る始めなり続(※ふりがなあり。かすれにて見えず)て文禄慶長に至り二代目お国翫

山三郎と其に芝居興行を世にお国

かぶきといふいまだ此ころは男女立合のきやう言なり然るに元和年中歌舞伎禁製あり

若衆歌舞伎となる下略之●江戸芝居の始は猿若道順是中村勘三郎元祖小歌の名人は

じめて

太鼓矢倉 御赦免あり時に寛永元年甲子の春二月十五日中ばしにおゐて始て芝居興行

す

其後堺町へうつり尚又天保十三寅年七月猿若街に替地を賜はり引移りて興行す根元よ

り今年に至り

二百三十六年相続こぶぎやうあり●寛永以来三都俳優の長市川の流れとうくとして

八世の

中の古今稀もの芸道は更なり狂歌俳諧をはじめ其余の風流みな人の知る所なり

●文政十一年五月市村座ニおゐて菅丞 相松王大當り同年七月同座におゐて千本桜

よし経

さがみ 相模五郎権太極上々同年九月同座におゐて合邦が辻大学之介立場の太平次二番目に  
 ひめこまつ 姫小松かめ王見事同十二丑年三月かわら崎座二おゐて仁木弾正男之助八汐谷蔵  
 むるい 無類天保六未年 伴海老蔵へ八代目團十郎相譲り海老蔵ト替名御目見として  
 同年三月市村座二おゐて鏡山岩ふじ二番目に助六古今無双八代目團十郎  
 うゐろう 売いづれも大當りく同十亥年三月かわら崎座二おいて新うす雪  
 いがの かみだんくろう 伊賀守團九郎大當り切に和藤内至極よし同十一年八月市村座二おいて  
 にじゅうしこうさかだんじょうよせう 廿四孝高坂弾正横蔵二番目二遠藤武者いづれも大極上々吉嘉永三戌年  
 三月かわら崎座へ下り御目見狂言として兜軍記景清熊谷みだ六  
 ばんすいちやうせいここんむるい 二番目番随長兵衛古今無類同月同座二おいて鬼一法眼よし同年五月  
 いせものがたりき 伊勢物語紀の名虎二番目佐野の次郎左エ門見事同四亥年八月白倉  
 でんごゑもんげなんしちすけかさわらぼくでん 傳五右エ門下男七助笠原ト傳極上々同年十一月同座二おゐて武智光秀  
 せきと 切二関の戸きれい同五子年初春五人男雷庄九郎はやし丈助よく  
 くわんせんちやうせいのぼ 同秋勧進帳勤め上り安政五年五月下り大功記中傾城反魂香※※(※かすれにて見えず)  
 てつがだけ 切鉄ヶ嶽同九月白石惣六中最明寺無類當正月幸兵衛股五郎鳴海大